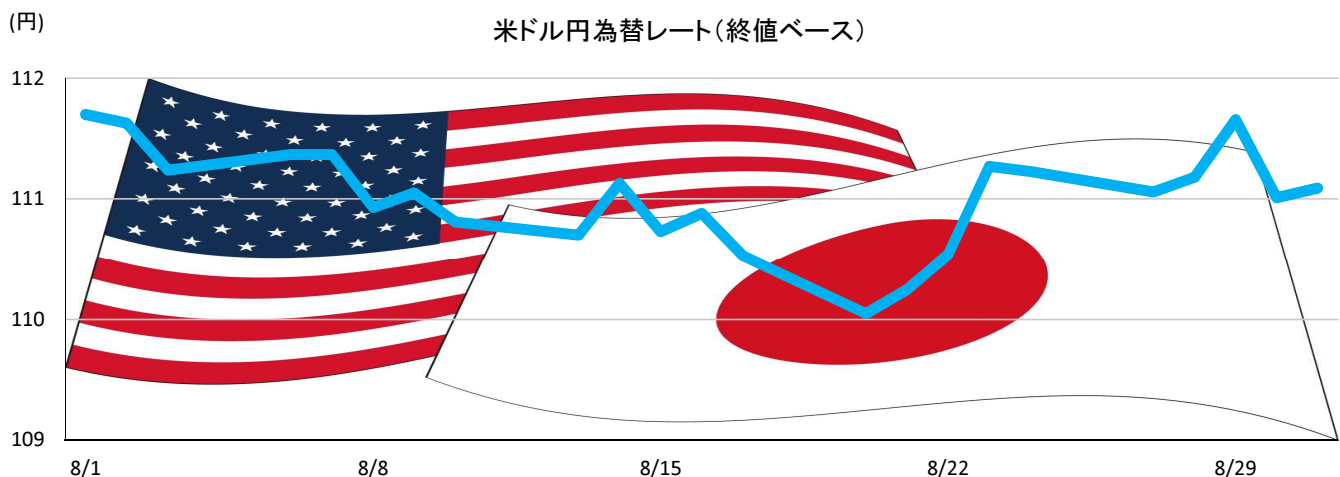


MARKET REVIEW

先月の振り返り: 8月のドル円相場は109円後半～112円前半で推移。今月も米貿易問題が主な材料となったが、夏季休暇ということもあり、取引はあまり活発ではなかった。さらにドル円以外の通貨が大きく変動したこともあり、ドル円が主役となる動きはあまりなかった。月初は米国とトルコの外交問題が悪化し、トルコリラが歴史的な安値を付けたことで、新興国通貨の取引が活発となり円はやや蚊帳の外となっていた。月中にかけてトルコ問題が落ち着きだしたものの、トランプ大統領の対中国貿易問題とFRBに対しての発言がドル売りを誘い一時110円割れとなった。月末にかけて米経済指標が良好だったことや利上げ期待感もありドル買いの流れで取引を終えた。



EXTRA VISION

今後の展開: このところの数カ月は貿易戦争懸念のドル売りと金利差拡大によるドル買いの攻防が続いていることから、依然として大きな方向性を見いだせない。瞬間的に大きな動きがあるが、結果的にレンジ取引内の動きから脱することができずにいる。8月もドル円は変動幅は約2円程度に収まっており、米国中間選挙の大勢が見えてくるまでは我慢の時間となるのではないだろうか。中間選挙の大勢が見えてくるとトランプ大統領の言動も多少変化すると思われ、それまでは騙しの動きに注意しつつ、ポジションを保有しておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
9 / 27 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
9 / 27 (木)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
9 / 28 (金)	17 : 30	GB	英GDP改定値	☆☆☆☆
10 / 5 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
10 / 11 (木)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
10 / 15 (月)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
10 / 17 (水)	18 : 00	EU	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。